

馬琴編

古今雜詠簡編



富貴多筆墨數

敵討蚤  
取眼

通油町鶴喜  
國撰

上

享和元

へ13  
2946  
133









日世茂端 嘉志 惠の堂子 其魚

作者馬... 月のは... 堂 著



これ... 今目... ち... して...



次寸















第四回 三つね 依着がさくし 其角

のこのあつちまふあやうであ  
 りたがうとじあふたこと  
 ひらんにゆひひ何とぞ  
 いららと成ひくを  
 あささたゆあやう  
 ひさねをまふ成  
 うらひ二のうで  
 けりあむら  
 かけあむら  
 よりあむら  
 胸をあさう  
 らひてかた  
 うのこのごと  
 さーけん  
 ささかねが  
 のゆあやう  
 さらまらにめ  
 さまーねを  
 あはくさね  
 とゆへんさうに  
 られまけり



あささたゆあやう  
 ひさねをまふ成  
 うらひ二のうで  
 けりあむら  
 かけあむら  
 よりあむら  
 胸をあさう  
 らひてかた  
 うのこのごと  
 さーけん  
 ささかねが  
 のゆあやう  
 さらまらにめ  
 さまーねを  
 あはくさね  
 とゆへんさうに  
 られまけり

中 日第五回

新書とゆき  
 華はゆき

ささかねが  
 のゆあやう  
 さらまらにめ  
 さまーねを  
 あはくさね  
 とゆへんさうに  
 られまけり



あささたゆあやう  
 ひさねをまふ成  
 うらひ二のうで  
 けりあむら  
 かけあむら  
 よりあむら  
 胸をあさう  
 らひてかた  
 うのこのごと  
 さーけん  
 ささかねが  
 のゆあやう  
 さらまらにめ  
 さまーねを  
 あはくさね  
 とゆへんさうに  
 られまけり

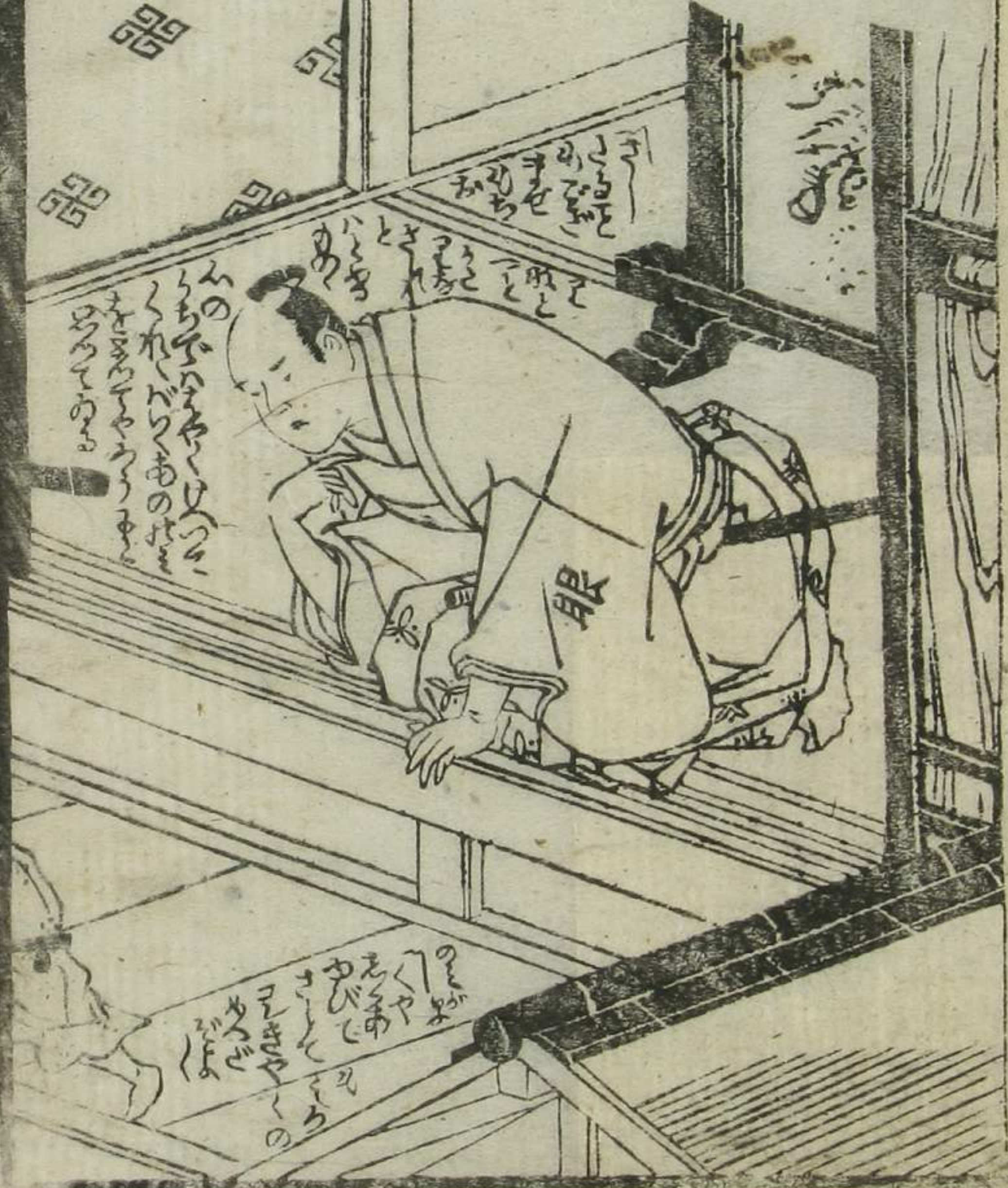






第七回 好むと見せぬ母の切用の子兼天

のて内かまの  
 をたうちのちい  
 かりうれが戸中  
 のんく名をうめ  
 ちみよひよ  
 をかむけしは  
 れのさつたをく  
 こりかしくかく  
 いらちちをう  
 はあつたらえ  
 れがまかあも  
 げんろまを  
 きやくせあひ  
 てたかめいほ  
 るひのまかち  
 まるくのすをら  
 せしとらひか  
 ぶこのと死しび  
 主してたこの  
 るろあつてひく  
 ゆんあかまゆ



のんく  
 ちみよ  
 をかむ  
 れのさ  
 こりか  
 いらち  
 はあつ  
 れがま  
 げんろ  
 きやく  
 てたか  
 るひの  
 まるく  
 せしと  
 ぶこの  
 主して  
 るろあ  
 ゆんあ



歌討































曲亭馬琴作



人の心をあやむこと  
 衆人から好まれるは  
 りとせむらうとくは  
 かたしとくは  
 ひまわり  
 本家  
 請合

人の心をあやむこと  
 衆人から好まれるは  
 りとせむらうとくは  
 かたしとくは  
 ひまわり  
 本家  
 請合



